

加藤友三郎 海軍軍人・政治家。日露戦争戦功で一気に力を発揮し始め、ついには首相になるも、現職のまま病没した。

かとうともさぶろう

遣欧使節・1861 = 広島13石3人扶持の下級藩士の儒学者加藤七郎兵衛の三男(末子)として広島大手町に生まる。

明治維新・1868 = 7歳 :

初の日刊新聞1870 = 9歳 :

明治6年政変 1873 = 12歳 :

海軍軍人となった長兄種之助の影響を受け、

上京して、海軍兵学寮(まもなく海軍兵学校と改称)に入学。

琉球処分・1879 = 18歳 :

・1880 = 19歳 : **海軍兵学校を2番で卒業し、**

明治14年政変1881 = 20歳 :

岩倉具視没・1883 = 22歳 : 海軍少尉に任官。

帝国大学始・1886 = 25歳 : 海軍兵学校砲術教授心得。

ついで、**海軍大学校に学び、**

初の対等条約1888 = 27歳 :

帝国憲法発布1889 = 28歳 : **同校を卒業(第1期)。**

浅間乗組・高千穂砲術長・横須賀鎮守府海兵团分隊長などを経て、

足尾鉾毒始・1891 = 30歳 : 造兵監督官としてイギリスに出張、

日清戦争始・1894 = 33歳 : 帰国後、**日清戦争が勃発すると、吉野の砲術長として豊島沖海戦・黄海海戦・威海衛攻撃などに加わり、勲功をあげた。海軍省軍務局第1課に勤務し、**

白馬会・1896 = 35歳 : 海軍大学校砲術教官を兼任。

八幡製鉄始・1897 = 36歳 :

その後、八島副長・筑紫艦長・軍務局軍事課長・同第1課長兼第2課長・常備艦隊参謀長などを歴任。

日露戦争始・1904 = 43歳 : **日露戦争に際し、第2艦隊参謀長として旗艦出雲に乗り組み、ウラジオ艦隊を撃破。海軍少将に昇進。**

日露戦争終・1905 = 44歳 : **東郷平八郎司令長官のもとで連合艦隊兼第1艦隊参謀長となり、旗艦三笠に乗艦して、日本海海戦でバルチック農隊の撃滅を指揮した。ついで、軍務局長を経て、**

満鉄発足・1906 = 45歳 : **海軍次官となり、斎藤実海相を補佐して日露戦争後の海軍拡張計画を推進、政府委員として議会に出席。**

アラビヤ 創刊・1908 = 47歳 : 海軍中将。

伊藤博文暗殺1909 = 48歳 : 次官を退任して、呉鎮守府司令長官、

明治天皇没・1912 = 51歳 :

大正政変・1913 = 52歳 : **第1艦隊司令長官となり、**

第一次大戦始1914 = 53歳 : **第1次世界大戦に日本が参戦すると、第1艦隊を率いて黄海方面に出動し、ドイツ艦船の探索と日本軍の青島攻略作戦掩護にあたる。この間、第1次山本内閣が退陣して組閣の大命を受けた清浦奎吾から海軍大臣として入閣を求められたが、入閣条件として海軍拡張計画の実現を要求して、清浦内閣を流産に追い込む。**

21ヶ条要求・1915 = 54歳 : 八代六郎海相がシーメンス事件に関する海軍部内の肅正を終って退任した後、***第2次大隈内閣の海相に就任し、海軍大将に昇進。以来、寺内・原・高橋および自ら首相となるの5代の内閣の海相を勤める。在任中は海軍部内をよく統制して、艦政機関の改革、海軍航空隊の新設など海軍諸機構の改革にあたる。はじめは88艦隊案の推進など海軍力の増強をはかったが、反面、国防力は軍事力のみならずとする広い視野に立ち、英米両国との無制限建艦競争には否定的で、**

大暴落・1920 = 59歳 : 男爵授与。

原敬首相暗殺1921 = 60歳 : 翌年にかけての**ワシントン会議**には日本の全権委員として出席し、**海軍軍縮条約・九箇国条約・四箇国条約**などの諸条約に調印して英米諸国との協調に努めた。晩年は病気がちで、

水平社結成・1922 = 61歳 : ***高橋内閣退陣の後、後継内閣組織の大命を受け、貴族院勢力を基礎に立憲政友会の支持を得て内閣を組織し、みずから海相を兼任、ワシントン会議で約束した海軍軍縮・シベリア撤兵を実行に移したが、**

関東大震災・1923 = 62歳 : ***現職首相のまま、大腸癌で、没した。死に際して子爵を授与され元帥府に列せられた。**